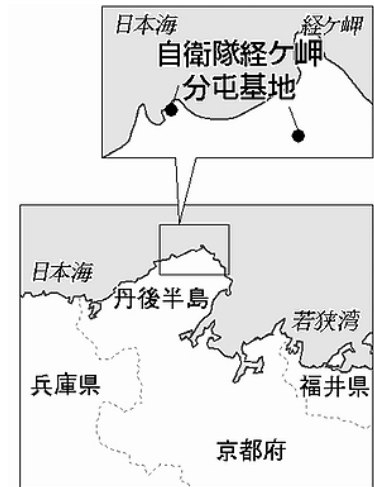


京都に米軍基地はつくらせない！

とめよう！京丹後市・経ヶ岬での米軍Xバンドレーダー基地建設

今年2月22日、日米政府は米軍Xバンドレーダーの日本国内への追加配備に合意しました。これを受けて、いま京都府京丹後市の経ヶ岬に新たに米軍基地をつくらせようとする動きが進められています。もし建設されてしまえば、それは京都で初めての米軍基地となります。沖縄の現実が示すように、米軍基地はどこでも周辺住民の命と生活に深刻な被害をもたらしてきました。また、米軍基地の建設は東アジアの平和に逆行し、戦争の脅威を拡大します。危険な米軍Xバンドレーダー基地の建設を止めるため、力をあわせましょう！



■ Xバンドレーダーとは？なぜ経ヶ岬に？

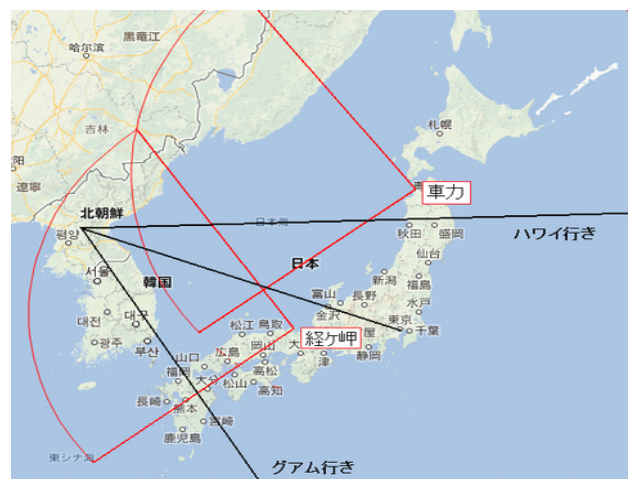
ここでいうXバンドレーダーとは、遠方から飛んでくるミサイルを空中で撃ち落とすという弾道ミサイル迎撃システムの一部です。このレーダーが捉えた情報にもとづき迎撃ミサイルが発射されることになります。Xバンドレーダーの探査距離は1000キロ以上、強力で最新鋭の兵器です。

米軍のXバンドレーダーは、2006年に青森県つがる市の自衛隊車力基地に国内で初めて配備されました。経ヶ岬への配備計画はそれに継ぐ二番目のものです。想定されているのは朝鮮民主主義人民共和国からのミサイル発射です。車力のレーダーはハワイに向けて、経ヶ岬に配備予定のものは主にグアム方面へと向かうミサイルをより前方で捕捉するためとされています。

ところで、現代の戦争においてレーダーは決定的に重要な役割を果たします。ミサイルや戦闘機、空母や原子力潜水艦など、どんなに高価で優れた兵器でもレーダーの誘導なしにはその性能を十分に発揮することはできません。それゆえ戦争の際にはレーダーは真っ先に攻撃の対象となります。米軍Xバンドレーダー基地の建設は、丹後半島を東アジアでの戦争の最前線に変えるとともに、周辺住民を戦争の脅威を日々さらし続けることになります。



(左) 経ヶ岬に配備予定のXバンドレーダー



(右) Xバンドレーダーの探査範囲

「止めよう経ヶ岬の米軍レーダー・危険な戦争準備を許さない」

緊急京都府民の会・南部連絡会

(共同代表) 大湾宗則 白井美喜子 上岡修 仲尾宏 木原壮林 瀧川順朗

連絡先 (TEL/FAX) 075-467-4437 (Email) kyogamisaki2013@yahoo.co.jp

■米軍人・軍属約160人が駐留する新しい米軍基地

防衛省の説明によれば、米軍のXバンドレーダーの本体は現在の航空自衛隊経ヶ岬分屯基地の敷地内に配備されます。

しかしそれだけでなく、制御設備や電源設備、冷却装置など関連設備を設置するために、新たに用地を取得して、そこを含めて新たに米軍基地がつくられようとしています。あわせて自衛隊基地自体の拡張も計画されています。



現地には清涼山九品寺（穴文殊）という旧札があり、その参道のクロマツは京都府による「京都の自然200選」に選ばれています。しかし、計画が進められれば参道は米軍基地と自衛隊基地に完全に囲まれてしまうことになります。

建設予定の米軍基地には約160人の軍人・軍属が駐留する予定とされています。防衛省はそのほとんどが民間の技術者と警備員だと説明しています。しかし、この「警備員」とはいわゆる民間軍事請負会社から派遣されるいわば傭兵です。青森県・車力のXバンドレーダー基地の警備員はカービン銃や拳銃で常に武装しています。私たちがふだん日本で接する警備員とはわけが違います。車力基地の警備は米ブラックウォーター社の関連会社が請け負っていますが、ブラックウォーター社の警備員はイラクやアフガニスタンでは戦闘も担い、イラクでは民間人虐殺によって非難を浴びてきました。

また、民間の技術者と警備員は基地の外に居住する予定であり、その住宅建設もつけ加わります。

こうした米軍基地および関連施設の建設と維持のために必要とされる費用は、すべて私たちの税金で賄われることになります。

■ 東アジアの軍事緊張を煽り、戦争準備を進める基地建設

米軍Xバンドレーダー基地の建設は、日米両軍の軍事一体化を推し進めることとなります。Xバンドレーダーの情報は自衛隊も共有します。そして、ミサイルが日本を標的にしていると判断されれば自衛隊も迎撃することになります。しかしその判断基準はあいまいであり、常にグレーゾーンがつきまっています。米国を狙ったものを自衛隊が迎撃したとすれば、それは歴代の日本政府が認めてこなかった集団的自衛権の行使にあたります。こうしたなかで、安倍政権は集団的自衛権の行使そのものの容認に向けて動き、さらには憲法改悪の道を進もうとしています。

朝鮮民主主義人民共和国を仮想敵とした経ヶ岬での米軍Xバンドレーダー基地の建設は、不可避に朝鮮半島・東アジアの軍事緊張を高め、戦争の脅威を拡大することとなります。対立を解決するためとしてさらに軍備強化をおし進めてゆければ、その行き着く先は戦争しかありません。それは日本と朝鮮半島・東アジアの人々に計り知れない犠牲をもたらします。そうではなく、対話を通して信頼醸成を一步步進めていくことこそ、この地域の平和と安定に質する確かな道だと私たちは確信します。

また、いったん経ヶ岬に米軍基地が建設されてしまえば、それは京丹後でのさらなる軍事強化をもたらす可能性があります。Xバンドレーダーを守ることを口実にして、次にはパトリオット・ミサイルなどの迎撃ミサイルが配備されるかもしれません。

■ 懸念される基地被害

今年2月に経ヶ岬での米軍Xバンドレーダー基地の建設計画が浮上して以来、それに関わる多くの懸念が地元をはじめとする人々から指摘されてきました。しかし、防衛省の説明は現在に至るまで払拭されていません。

☆ 飛行制限区域の設定 ☆

Xバンドレーダーが照射される海側に向かって半径6KMの半円柱形の飛行制限区域の設定が予定されています。このことが、ドクターヘリの運用や海難救助・捜索活動に支障をきたすことが懸念されています。防衛省は「停波などの措置がとれるよう、米軍との調整の仕組みをつくる」としていますが、青森県では海難事故に関する捜索活動が制約を受けた例もあります。

☆ 電磁波の影響は？ ☆

Xバンドレーダーが発する強力な電磁波の影響について、防衛省は「(レーダー前方の立ち入り禁止区域以外では)人体や健康への影響は生じない」と繰り返しています。しかし、Xバンドレーダーの出力は「軍事機密」として公開されておらず、正確な出力も分からないままの回答に疑念が生じています。

☆ 漁業など地域生業、通信への影響 ☆

漁業関係者はレーダーの電磁波への漁船の無線やGPSの影響を懸念しています。京丹後市のある市幹部は反対を表明している漁協との懇談で「電磁波の影響調査を設置後3ヶ所で実施し、問題があれば撤退してもらおう」という趣旨の発言をしています。しかし、いったん基地をつくったあとで、簡単に米軍が出ていくのでしょうか？その他にもテレビや携帯電話など通信への影響も心配されています。

☆ 水問題 ☆

地元は水利にめぐまれていない地域です。米軍はレーダーの冷却や生活用水として一日5万リットルの水の使用を見込んでいます。防衛省は「水の使用量を減らすべく、(米軍に)要請している」と言いますが、それに米軍が応えるかは別問題です。また基地からの排水の周辺環境・生態系への影響の懸念については「影響がないよう…適切に対応します」として具体的に答えていません。

■ 繰り返される米軍犯罪

沖縄をはじめ米軍基地の周辺では、米軍人・軍属による事件や事故、女性や子供たちに対する性暴力など凶悪犯罪が繰り返し引き起こされています。経ヶ岬に配備される米軍人・軍属だけが例外だということは決してありえません。青森県でも車力のXバンドレーダー基地に配属された「民間警備員」による住居侵入事件や地元の人への暴行傷害事件が発生しています。

日米安保体制のもとでの日米地位協定では、公務中の米兵が起こした事件・事故の第一次裁判権は米軍にあり、日本側が裁くことはできません。こうした不平等な日米地位協定が米軍犯罪を助長しており、多くの被害者が泣き寝入りをさせられています。また、先日沖縄で起こった米軍ヘリ墜落事故では、日本側の警察や行政職員、メディア等は墜落現場への立ち入りを禁止されました。

米軍基地が建設されるということは、そこに日本国憲法が適用されない、米軍のための「治外法権」の空間がつけられるということです。

沖縄の主な米兵事件・事故	
1995年 9月	●海兵隊員ら3人が小学生女児を暴行。日米両政府は10月、起訴前の容疑者身柄引き渡しなど日米地位協定の運用見直しで合意
2002・11	●海兵隊少佐が具志川市(現うるま市)で女性に暴行未遂
03・5	●海兵隊上等兵が女性を殴って強姦(ごうかん)
05・7	●空軍2等軍曹が沖縄市で小学生に強制わいせつ
08・2	●北谷町で女子中学生を暴行したとして海兵隊2等軍曹を逮捕
09・11	●陸軍2等軍曹が読谷村で男性をひき逃げして死亡させる
11・1	●沖縄市で軍属の男の車が対向車線にはみ出し、正面衝突した軽乗用車の男性死亡
12・8	●那覇市で女性にわいせつな行為をしてけがをさせたとして、海兵隊伍長を逮捕
10	●強姦致傷容疑で米兵2人を逮捕

■ 丹後半島の暮らしと環境を守るために

丹後半島は、歴史と文化にはぐくまれ、豊かな自然に恵まれた地域です。過疎化と高齢化、人口減少という悩みを抱えつつも、多くの人々が自然と共生して生活してきました。また、京都や近畿に住む私たちにとってキャンプや海水浴、魚や野菜、丹後ちりめん、時にはカニやアワビ・サザエを求めて行き来した楽しい所であり、お世話になっているところでもあります。

京都府もまた「地域の持っている『宝』をいかした『元気な丹後』をめざします」「丹後地域の豊かな景観・自然・環境・文化を守り、次世代に伝えていきます」「健康長寿で安心・安全に暮らせる生活基盤を整備します」（『丹後地域振興計画』2011年）としてきました。経ヶ岬への米軍Xバンドレーダー基地の建設は、こうした京都府がすすめる地域振興計画にも反するものです。

京丹後市をはじめとした丹後の住民は、大きな不安を抱えています。住民説明会でも、多くの住民から次々と不安や反対の意見が表明されています。



(写真上) 丹後松島の見事な景観

(写真左下) 基地建設予定地のすぐそばにある九品寺

(写真右下) 丹後の間人（たいざ）ガニの味は絶品

米軍基地はどこにもいらない！

戦争のための基地は、沖縄にも岩国にも京都にも、どこにもありません。経ヶ岬に新たな米軍基地が建設されるならば、それはさらに近畿地方に第二・第三の米軍基地が建設される突破口ともなりえます。安倍政権はいま、憲法改悪、集団的自衛権行使の全面的な承認など、戦争への道を突き進もうとしています。それを許さず、京丹後市・経ヶ岬での米軍Xバンドレーダー基地の建設をとめるために、共に力をあわせていきましょう！

MEMO